

## がん看護教育に関する基礎調査 —看護学生が抱くがん患者のイメージ—

磯本 暁子\*・掛屋 純子

成人看護学

(2012年11月28日受理)

看護基礎教育において、がん看護実践の基盤形成につながる教育内容を検討するため、学生が抱くがん患者のイメージを明らかにすることを目的に、看護学部生 192 名にがん患者のイメージについての自由記述調査を行った。内容分析の結果、346 コード、40 サブカテゴリー、『早期発見で治癒』『死と隣り合わせ』『患者の苦悩』『生と向き合う』『家族の苦悩』『看護支援』『わからない』の7つのカテゴリーが抽出された。看護学生の持つがん患者のイメージは、命を奪う疾患に罹患しているとの認識を示す『死と隣り合わせ』と、がん治療等による《副作用による苦痛》《疼痛》《恐怖》《不安》等『患者の苦悩』が多くの部分を占め、がんサバイバーを支える継続的な看護支援のイメージは乏しいことが明らかとなった。看護基礎教育においても、がんを慢性疾患ととらえ、がんという診断を受けた後の QOL に根ざした継続的な看護支援への理解を深め、がん看護実践の基盤形成につながる教育内容を考慮する重要性が示唆された。

(キーワード)がん患者、イメージ、看護学生

### はじめに

がんの罹患は2人に1人、がんによる死亡は3人に1人といわれている。2007年にはがん対策基本法が施行され、がんについての専門的な知識や技能を持つ医療従事者の育成、がん患者の療養生活の質の維持向上等<sup>1)</sup>国策としてがん対策の取り組みがなされている。このように国策としてがん対策への取り組みがなされているなか、がん看護を担う看護師育成の基礎となる基礎看護教育におけるがん看護教育についても検討が必要であると考えられる。沼沢ら<sup>2)</sup>は、学生のがんへのイメージを大切にしながら学習を進めることを教育的役割として述べており、本研究によって学生の抱くがん患者のイメージを明らかにし、今後の教育上の課題と教育内容の検討資料とする。

### I 研究目的

看護基礎教育において、がん看護実践の基盤形成につながる教育内容を検討するため、学生が抱くがんのイメージを明らかにする。

### II 研究方法

#### 1. 研究対象

A 大学看護学部看護学科在学の1~3年次生 192名

#### 2. 調査期間

2012年5月

#### 3. 研究方法

A 大学看護学部の在学学生 192名に無記名自記式質問紙による留め置き法でがん患者のイメージについての自由記述調査を行った。

#### 4. 分析方法

学生の自由記述の分析は内容分析の手法を用いた。自由記載の内容から意味や内容が一つのまとまりになるように区切り、コードとした。コード内容を類似性や相違性を吟味しながら分類し、サブカテゴリーとした。さらに類似性に配慮しカテゴリーとして集約した。

#### 5. 倫理的配慮

A 大学の倫理委員会の承認を得、対象者に口頭と文書で研究の目的、参加・同意撤回の自由、成績等への不利益は被らないことを説明した。また、データはすべてコード化し、個人が特定されないよう匿名性を保持すること、プライバシーの厳守、この結果については、論文として公開することを説明した。調査票の投函をもって同意を得たものとした。

### III 結果

\*連絡先：磯本暁子 新見公立大学 看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

表1 看護学生のがん患者に対するイメージ

| カテゴリー(7)      | サブカテゴリー(40)       | コード(例)  | サブカテゴリー毎<br>コード数<br>(346)             | 学年別<br>コード数 |    |    | コード数<br>(346) |
|---------------|-------------------|---|---------------------------------------|-------------|----|----|---------------|
|               |                   |   |                                       | 1           | 2  | 3  |               |
| 早期発見で治癒       | 誰もがかかる可能性がある      | 二人に一人なら自分もなるかもしれない<br>誰もがかかる可能性がある  | 10                                    | 3           | 6  | 1  | 23            |
|               | 早期発見で治る           | 早期発見できれば治る  | 10                                    | 5           | 3  | 2  |               |
|               | 治癒する人もいる          | 完治する人もいる  | 3                                     | 1           | 2  | 0  |               |
| 死と隣り合わせ       | 再発する              | 再発する<br>再発する可能性がある  | 11                                    | 0           | 7  | 4  | 74            |
|               | 転移する              | 転移する  | 3                                     | 1           | 0  | 2  |               |
|               | 不治の病              | 治りにくい<br>不治の病   | 11                                    | 4           | 2  | 5  |               |
|               | 発見が遅れると死に至る       | 発見が遅れると死に至る<br>がんは命に関わる<br>進行すると死ぬ  | 14                                    | 8           | 4  | 2  |               |
|               | 死                 | 死<br>死と隣り合わせ<br>死を意識してしまう   | 30                                    | 5           | 11 | 14 |               |
|               | 終末期               | 終末期   | 5                                     | 1           | 2  | 2  |               |
|               | 患者の苦悩             | 治療が辛い   | 治療が辛い<br>化学療法がとても辛い<br>薬や放射線治療の影響が大きい | 20          | 5  | 8  |               |
| 副作用による苦痛      |                   | 副作用が大変<br>抗がん剤の副作用が辛い   | 24                                    | 5           | 5  | 14 |               |
| 変容する外見に動揺する   |                   | 抗がん剤の副作用で脱毛する<br>どんどんやせていく<br>変わり果てていく自分の姿を見て取り乱す   | 11                                    | 3           | 3  | 5  |               |
| 動けない          |                   | 動けない<br>寝たきり  | 2                                     | 1           | 0  | 1  |               |
| 徐々に衰弱する       |                   | 転移により徐々に衰弱する  | 3                                     | 0           | 1  | 2  |               |
| 疼痛            |                   | 疼痛<br>痛みに耐えている  | 15                                    | 0           | 7  | 8  |               |
| 恐怖            |                   | 恐怖<br>再発が怖い<br>死に対する恐怖  | 15                                    | 2           | 7  | 6  |               |
| 不安            |                   | 自分のこれからのことを不安に思っている<br>不安が大きい<br>不安でいっぱい<br>治らないのではないかと不安   | 21                                    | 3           | 10 | 8  |               |
| つらい           |                   | つらい   | 8                                     | 2           | 1  | 5  |               |
| 苦しい           |                   | 苦しい<br>しんどそう  | 13                                    | 3           | 3  | 7  |               |
| 絶望する          |                   | 患者は絶望している<br>末期の人の場合人によっては希望を失う   | 5                                     | 4           | 0  | 1  |               |
| 精神的に不安定になる    |                   | 気持ちが不安定になりやすい<br>精神的に落ち込みやすい  | 7                                     | 1           | 4  | 2  |               |
| 現実を受け入れがたい    |                   | 現実を受け入れがたい  | 1                                     | 0           | 0  | 1  |               |
| 暗くなる          |                   | やるせない気持ち<br>暗くなる  | 6                                     | 3           | 0  | 3  |               |
| 自暴自棄になる       |                   | 自暴自棄になったりする人がいる<br>おこりっぽくなる   | 2                                     | 2           | 0  | 0  |               |
| 一人で苦しむ        |                   | 言われるまま治療を受けて苦しんでいる<br>一人で苦しみを抱えてしまう   | 2                                     | 2           | 0  | 0  |               |
| 悩みながら生活する     |                   | がんについて悩みながら生活している   | 2                                     | 1           | 0  | 1  |               |
| つらく長い闘病生活     |                   | 闘病生活はつらく長い  | 4                                     | 1           | 1  | 2  |               |
| 身体的・精神的苦痛を生じる |                   | 身体的・精神的苦痛を生じている<br>治療で精神的にも身体的にも衰弱する  | 8                                     | 1           | 1  | 6  |               |
| 痛みをコントロールが可能  |                   | 痛みをコントロールできる<br>痛みを取り除く治療もある  | 3                                     | 0           | 0  | 3  |               |
| 生と向き合う        | 生きることを大切にする       | 前を向いて明るくがんと闘う人もいる<br>自分なりの生き方をしている<br>余命を告げられながらも生きる希望をもっている<br>生きること(時間)を大切にしている<br>最後まで闘病する人がいる | 13                                    | 6           | 1  | 6  | 19            |
|               | 自分自身・家族と向き合う機会を得る | 家族や友人と向き合う機会が与えられる<br>自分自身と向き合う機会が与えられる   | 3                                     | 1           | 0  | 2  |               |
|               | 人生の意味を考える         | 人生の意味、スピリチュアルな問題をいただく<br>乗り越えようとがんが大きな強みになる   | 2                                     | 0           | 0  | 2  |               |
|               | 人生が一変する           | それまでの人生が一変する  | 1                                     | 0           | 0  | 1  |               |
|               | 家族の苦悩             | 家族の方も苦しんでいる<br>家族も不安  | 5                                     | 1           | 1  | 3  |               |
| 看護支援          | 告知の問題             | 告知  | 2                                     | 0           | 0  | 2  | 14            |
|               | 死への準備・グリーフケア      | 死への準備をしている<br>グリーフケア  | 3                                     | 0           | 1  | 2  |               |
|               | 尊厳死・倫理            | 尊厳死<br>倫理   | 2                                     | 0           | 0  | 2  |               |
|               | どう看護したらよいか悩む      | なんて声をかけていいのかわからない   | 4                                     | 0           | 1  | 3  |               |
|               | 心身ともに支える          | 患者を心身ともに支えることが重要になる   | 3                                     | 1           | 1  | 1  |               |
| わからない         | わからない             | 38  | 15                                    | 12          | 11 | 38 |               |

1年次生59名、2年次生59名、3年次生63名、総計181名の回答を得、全体の回収率は93.7%であった。

分析の結果、346コード、40サブカテゴリー（以下《 》）、7カテゴリー（以下『 』）が抽出された。『早期発見で治癒』『死と隣り合わせ』『患者の苦悩』『生と向き合う』『家族の苦悩』『看護支援』『わからない』の7つのカテゴリーを抽出した。

### 1. がんという言葉の持つイメージ

“がん”という言葉のもたらすイメージとして『早期発見で治癒』『死と隣り合わせ』の2カテゴリーが抽出された。

『早期発見で治癒』は、3つのサブカテゴリーで構成され、《誰もがかかると可能性がある（コード数10、以下括弧内にコード数を記す）》、がん医療の向上にともなう《早期発見で治る（10）》《治癒する人もいる（3）》があった。『死と隣り合わせ』は、がんの病態学的な特徴をとらえた《再発する（11）》《転移する（3）》、がんは命を奪う疾患であるとの認識を示す《発見が遅れると死に至る（14）》《不治の病（11）》《死（30）》《終末期（5）》の6つのサブカテゴリーから構成された。

### 2. 患者の体験

『患者の苦悩』は、21サブカテゴリーで構成された。がん治療やがんの全身性の影響に伴う身体の状態の変化を表す5つのサブカテゴリーとして《治療がづらい（20）》《副作用による苦痛（24）》《変容する外見に動揺する（11）》《動けない（2）》《徐々に衰弱する（3）》が抽出された。また、がん疾患が身体的・精神的な側面にもたらす苦痛を示す15のサブカテゴリーとして、《疼痛（15）》《恐怖（15）》《不安（21）》《つらい（8）》《苦しい（13）》《絶望する（5）》《精神的に不安定になる（7）》《現実を受け入れがたい（1）》《暗くなる（6）》《自暴自棄になる（2）》《一人で苦しむ（2）》《悩みながら生活する（2）》《つらく長い闘病生活（4）》《身体的・精神的苦痛を生じる（8）》《痛みコントロールが可能（3）》が抽出された。

そして『生と向き合う』は、がん罹患することで直面する人生の危機にあって向き合うスピリチャリティを示す《生きることを大切にする（13）》《自分自身・家族と向き合う機会を得る（3）》《人生の意味を考える（2）》《人生が一変する（1）》の4つのサブカテゴリーで構成された。

### 3. 家族の体験

がん患者から想起される家族の体験としてのイメージは、『家族の苦悩』としての《家族の不安・苦しみ（5）》のひとつであった。

### 4. 看護支援

がん患者から想起される『看護支援』のイメージは、《ど

う看護したらよいか悩む（4）》《告知の問題（2）》《死への準備・グリーフケア（3）》《尊厳死・倫理（2）》《心身ともに支える（3）》の5つのサブカテゴリーで構成された。

### 5. わからない

このカテゴリーは、がん患者のイメージが想起されない記述であり《わからない（38）》であった。

### 6. 学年別のコード数

『わからない』を除いたコード数では、1年次生は76、2年次生は93、3年次生は130であった。

## IV 考察

### 1. 「がん」という言葉の持つイメージ

がんという言葉と恐怖、不安は2500年も前から1つに溶け合い、がんの歴史は恐怖の歴史を描くことでもある<sup>3)</sup>とダルモンはその著書で述べている。また、医療の進歩した現在においても「がんイコール死」のイメージに加えて、得られる情報の増加によって知ることによる恐怖が増大し、がん死亡者の増加によって、がんは人の命を奪うものといっそう強く認識されている<sup>4)</sup>との見解もある。学生ががん患者から想起した「がん」という言葉に対する記述は、《早期発見で治る》《治癒する人もいる》という内容がある反面、《発見が遅れると死に至る》《不治の病》《死》《終末期》という命を奪う疾患であるとの認識を示す負のイメージに傾いており、長い歴史のなかで形成された「がん」という言葉の持つイメージと同様のイメージが学生にも形成されていることが推察された。

### 2. 患者の体験

学生の記述の分析から得られた患者の体験を示す記述のなかでも、『患者の苦悩』としてのがん治療やがんによる全身性の影響に伴う身体の状態の変化を表す《治療がづらい》《副作用による苦痛》《変容する外見に動揺する》《動けない》《徐々に衰弱する》のサブカテゴリーは、がん治療中、再発・転移をして再度治療を受ける時期と治療効果が得られず病態の進展にともなった終末期の体験が含まれていた。

また、学生は《疼痛》《恐怖》《不安》《つらい》《絶望する》《精神的に不安定になる》《現実を受け入れがたい》《暗くなる》《自暴自棄になる》《一人で苦しむ》《悩みながら生活する》《つらく長い闘病生活》《身体的・精神的苦痛が生じている》《痛みコントロールが可能》という、がんが身体的・精神的な側面にもたらす苦悩を多く記述していた。

がんサバイバーとは、「がんと診断されたときから人生の最後まで、がんとともに生きるがん生存者」という概念

5)である。がんサバイバーががんとともに生きる経過の長さからがんは慢性疾患といえる。そして、がんサバイバーが慢性疾患としてのがんとともに生きる中で体験する様々なプロセスががんサバイバーシップである。この体験のプロセスをがんの診断・治療を軸に見ると、がんが診断された直後、がん治療中、再発・転移をして再度治療を受ける時期、治療効果が得られ治療を終えた時期、治療効果が得られず病態の進展にもなった終末期などがある。この過程のうち、治療効果が得られ治療を終えた時期は、医療者との接点が減り看護支援が必要であっても支援を受ける機会が減る時期である。一方、学部の授業構成として、がん疾患の病態生理、がんの治療と看護、症状マネジメントといった疾患・治療に関連した単元が多いことから、治療効果が得られ治療を終えた時期に関連する記述が少ないことが考えられた。

がん看護の目指すところは、患者ががん治療を受けているか否かにかかわらず、がんとともに生きる人の生活の支援を行うことである。つまり、がんを慢性疾患ととらえ、治療の如何に関わらず、がんという診断を受けた後のQOLに根ざした継続的な看護支援が重要であり、看護基礎教育においても、治療が終了し落ち着いた時期から長期に変化のない時期にも焦点を当てたがん看護教育を考慮することが重要である。

看護学生の持つがん患者のイメージは、がんという言葉のもたらすイメージである『死と隣り合わせ』、患者の体験としての『患者の苦悩』が多くを占めていた。また、早期発見、終末期というキーワードは記述されていたものの、がんという病いととともに生きる「がんサバイバー」とがんサバイバーを支える継続的な看護支援のイメージは乏しかった。このことから看護基礎教育においても、がんを慢性疾患ととらえ、がんという診断を受けた後のQOLに根ざした継続的な看護支援への理解を深め、がん看護実践の基盤形成につながるような教育内容の検討が重要であることが示唆された。

一方少ないながらも『生と向き合う』側面として、『生きることを大切にする』《自分自身・家族と向き合う機会を得る》《人生の意味を考える》《人生が一変する》という患者の体験が記述されたことは、がんに罹患し、人生の危機と向き合うなかで生じる患者の終末期のスピリチャリティへの苦悩に目をむけていることを示している。杉谷ら<sup>6)</sup>はがんにかかった人との関わり体験は、看護学生のがん

イメージを肯定的にする一要因であるとしている。臨地実習を行う前の学内の講義においては、がんサバイバーの体験談に触れる機会を設ける等、がんサバイバーシップについての共感的理解を促進する教育内容の検討を行い、よりよく生きるという視点からの患者理解を深めることがQOLに根ざした看護支援について思考する一助になると考える。

### 3. 家族の体験、看護支援

家族の体験や看護支援内容に言及した記述は多いとはいえず、わからないと記述した学生も少なくない状況であり、家族の体験をイメージ化できる教材の工夫、看護支援が具体的にイメージできる事例の提示等によるがん看護教育の必要性が示唆された。

### 4. 学年別のがん患者に対するイメージ

1年次生のコード数が少ないことは、調査時期が5月であり、専門基礎分野の講義が開始されたばかりであったことが影響していると考えられた。学年が進むごとにコード数の増加がみられており、基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと学習の深度が増し、疾患やがん看護に関する知識が増加していると思われる、一定の学習効果が得られていると考えられた。

## 文献

- 1) 大西和子：日本におけるがん医療・看護の歩み、大西和子・飯野京子編集、がん看護学、47、ヌーベルヒロカワ、2011。
- 2) 沼沢さとみ、山田皓子、齋藤亮子、井上京子：看護学生のがんイメージと教育的役割、日本がん看護学会誌、19、166、2005。
- 3) ピエール・ダルモン著：河原誠三郎・鈴木秀治・田川光昭訳、癌の歴史1-23、新評論、1997。
- 4) 前掲3) 15-16
- 5) 遠藤恵美子：がんと共に生きることへの支援、大場正巳・遠藤恵美子・稲吉光子編集、新しいがん看護、194-205、ブレーン出版、1999。
- 6) 杉谷かずみ、犬童幹子、松本貴彦：看護学生のがんイメージと教師の役割、大阪府立看護大学医療技術短期大学部紀要、9、27-33、2003。

**Student nurses' views of cancer patients**

Akiko ISOMOTO, Junko KAKEYA

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama, 718-8585, Japan

Summary

Student nurses were instructed to write freely about cancer patients in order to reveal how they consider those patients and as a means to study the cancer nursing course in the basic education. Seven categories have been extracted as a result of analyzing what the students wrote. Most of the students' views of cancer patients are occupied with "dying" or hard "patient's experience," which includes pain from side effects caused by cancer treatment. It has been revealed that only a few students bore the image of continuous nursing and supporting for cancer survivors. It is suggested that it is important to consider cancer a chronic disease, have a deep understanding of continuous nursing based on the quality of life after the patients is diagnosed as cancer, and make the education content lead to the formation of basic cancer nursing practice.

Keywords: student nurse, cancer patients